



学校が元気に!地域が元気に!

令和5年度 コミュニティ・スクールだより No.2

かほく市立高松中学校
校長 塚田 秀和
学校 CN 沖野 ゆかり
コーディネーター

1年生「ぶどう栽培を通じた地域学習」喜多ぶどう園見学／ぶどう講話

7月4日(火)に1年生80名にて、ぶどう園の見学に出かけました。見学先は、学校から一番近い喜多ぶどう園です。生徒に最高の状態で収穫体験と試食をさせてあげたいと喜多さんのご厚意で、この日まで収穫を待っていただきました。農家の方が年間を通じお世話され、丹精込めて育てられたぶどうの糖度はなんと21度以上。あまりの美味しさに自然とみんな笑顔になっていました。



収穫後は学校に戻り、「高松ぶどう」について高松ぶどう生産組合の大田会長より、「高松ぶどうの歴史」「生産者の現状と課題」等についてお話を伺いました。高松ぶどうの歴史は100年以上でその粒の大きさは世界一で誇れる一方、近年は、生産者の高齢化により後継者が減っているそうです。ぶどう栽培にあたり生産者としてのご苦勞を聞いたところ「大変なことがあっても収穫時にはその辛さは全て喜びに変わっている」とのことでした。



大田会長からは、ぶどう栽培に関わるだけでなく、ご自身の人生経験を踏まえた貴重なお話もいただき、「今は心も体も成長する時期なので、しっかり学んで欲しい」とエールをいただきました。

■生徒からの感想■

ぶどうの収穫を通じて、改めて生産者さんのすごさに気づくことができました。あんなに甘いぶどうを育てられる人たちがいて、それを受け継いでいるから104年もの間、高松のデラウェアが有名になったんだなと思いました。大田さんが50年もぶどうのお仕事をされていると知って、自分もやりがいを感じることでできる仕事に将来就きたいと思いました。今日、学んだことをこれからのかほく市の学習に活かしたいです。

高松ぶどう生産組合様より感謝状が贈呈されました。

毎年、1年生が美術の授業で「高松」をテーマにした「のぼり旗」のイラストを制作しています。

その中の作品のひとつである寺山比奈さん（現在2年生）が昨年考案したデザインが、高松ぶどう生産組合の、のぼり旗に採用され、この度、感謝状が贈呈されました。

寺山さんのデザインについて、「ぶどうの丸い赤みをおびた粒の立体感があふれんばかりに描かれており、ぜひとも、これをのぼり旗にして高松ぶどうのPRにつなげたい」と大田会長の目にとまったものです。

こののぼり旗は、ぶどう畑周辺やイベントでも掲げられ、地元の特産「高松ぶどう」のPRに大きく貢献することになります。



ジュニア
ボランティア
サークル

JVC 絆の活動報告



◆「手話をやってみよう」の撮影がありました。

5月31日と6月14日のミーティングの際に、広報かほく連載記事「手話をやってみよう」のコーナーに掲載される手話の撮影がありました。手話で表現したい言葉も絆のメンバーが考え選出しました。

当日は、市役所の方から丁寧に手のしぐさを教えてもらい、緊張しながらの撮影となりました。

この手話での出演は、7月～9月の広報かほくに掲載される予定です。

